独立行政法人国立青少年教育振興機構
国立那須甲子青少年自然の家

令和８年度教育事業報告書

事業名	なすかしの森ボランティア養成研修
期日	令和８年５月 30 日(土)～５月 31 日(日)
会場	国立那須甲子青少年自然の家
対象	ボランティアに興味関心のある高校生以上の者
参加者数	17 名(大学生 10 名、高校生７名)
趣旨	国立青少年教育振興機構が提供する法人ボランティア養成カリキュラムに基づいて実施し、青少年教育施設で活動できるボランティアを育成する。

事業内容及び成果と課題

〈事業内容〉

当機構の法人ボランティア養成カリキュラムに基づき、参加者が実際のボランティア活動時に生かせるよう、「青少年教育施設の現状と運営」「青少年教育」「ボランティア活動の技術（野外炊事、キャンプファイヤー)」「安全管理」に関する講義・演習を実施した。

〈成果〉参加者層の拡大と研修内容の充実の２点（詳細は以下）

1　参加者数は昨年度から増加した。特に高校生については、これまで当施設を利用した経験のある高校生が友人に参加を呼び掛けたことなどにより、参加者数が増加した。高校生と大学生が共に研修に取り組むことで、異なる年代間で交流しながら学ぶ機会を創出することができた。

また、経験豊富な先輩ボランティアが自身の活動経験を共有したほか、実際のボランティア活動で指導を担う職員が講義・演習を担当したことで、参加者とスタッフとの関係づくりが進み、今後の活動に向けた意欲の向上につながった。

2　「ボランティアの技術」では、野外炊事に加えてキャンプファイヤーの演習を実施した。今後の教育事業で必要となる基礎的な知識や技能の習得を重視し、昨年度より演習時間を長く設定した結果、参加者は活動をより具体的にイメージしながら学ぶことができた。また、活動プログラムの指導補助に必要な技能や留意点を理解し、ボランティア活動に生かせる実践的な力を身に付けることができたと考えられる。

〈課題〉参加者の確保と継続的な活動支援

参加者数は昨年度から増加し、高校生の参加数が増えるなど一定の成果があった。一方で、機構本部の教育事業方針における参加者数の目標には依然として十分な水準には達しておらず、参加者の確保には課題がある。今後は、高等学校や大学等への広報活動を継続するとともに、既存ボランティアによる紹介や SNS 等も活用するなど、より効果的な募集方法を検討する必要がある。また、養成後も継続して事業に参画できるよう活動機会の提供やフォロー体制の充実を図り、ボランティア同士のつながりを生かした新規参加者の拡大につなげていきたい。

事業の様子


講義の様子


アイスブレイクの様子


救急救命講習の様子


野外炊事の様子


キャンプファイヤーの様子


閉講式の様子